

龕ゴウ祭 映像作品に

テーマは「絆」「笑顔」

中京大学 加藤ゼミ 地域の協力で密着取材

豊見城

【豊見城】中京大学（愛知県豊田市）の加藤晴明教授（メディア社会学）ゼミの学生3人がゼミ活動の一環で24日、同市高安で12年に1度、（豊見城）年（豊見城）の旧暦8月9日に開かれた「龕（豊見城）ゴウ祭」の模様を取材した。ビデオ映像作品化を目指している。



「龕（豊見城）ゴウ祭」を取材したのは同大2年の有留完さん、北沢歩実さん、長屋知里さん、豊見城市のラジオ局FMとよみ（安慶名雅明社長）で毎年同ゼミがインターンシップ研修を行っていることから「龕（豊見城）ゴウ祭」の情報を知り、来県することになった。

3人は20日に沖縄入りし、21日から高安自治会を訪れ、地元の人から祭りの概要などを学び、龕（豊見城）が安置されている龕屋などを撮影。祭り当日には午前中から夜の祝賀会まで祭りの様子を記録した。

「龕（豊見城）ゴウ祭」を取材する中京大2年の（右から）有留完さん、北沢歩実さん、長屋知里さん。24日、豊見城市高安自治会前広場

有留さんは「名古屋ではコミュニケーション文化はなくなっており、地域を

挙げての祭りは珍しい」と話す。

北沢さん、長屋さんは

龕ゴウ祭 映像作品に

豊見城 絆テーマに中京大生



12年に1度の「龕ゴウ祭」の取材に訪れている中京大学の学生3人（右側）と加藤清明教授（左）
＝豊見城市高安の龕屋前

【豊見城】市高安で24日に開かれる12年に1度の「龕ゴウ祭」で、中京大学（愛知県豊田市）の加藤清明教授（メディア社会学）ゼミの学生3人が、ビデオ映像作品の制作のため取材に訪れている。家

族や「絆」をテーマに約15分にまとめ、映像祭への出展を目指すという。21日は地元関係者から基礎知識を学び、龕を収めている龕屋の撮影など、精力的に取材した。取り組むのは、2年

生の有留完さん(20)、北沢歩実さん(20)、長屋知里さん(19)。

同ゼミが毎年、同市の地域ラジオ局・FMとよみ(安慶名雅明社長)にインターンシップで学生を派遣している縁で情報を得た。地域と連携した学習や作品作りを目的に時期を合わせて来県した。

長屋さんは「12年に1度と聞き、いいチャンスだと思つた」と話し、有留さんは「地元の方々もバックアップしてくれている。いい作品ができると思う」と手応え。

同行した加藤教授は「こういうことがなければ、生で沖縄の文化に触れることはない。自他を考える機会にしてほしい」とエールを送った。